

金属プレス製品製造業における転倒災害の死傷災害発生事例（2017年）

| 2017年発生月 | 時間 | 死傷災害発生事例 | 年齢 | 労働者規模 |
|----------|-------|---|----|-------|
| 1 | 7~8 | 出勤のため、当社構内を事務所に向かって歩行移動中に、地面がアイスバーン状態のため滑って転倒し、咄嗟に右手を地面に着いたところ、右手関節を負傷した。再発防止策として、滑りにくい靴を履く、転びにくい歩き方をする、凍結防止剤を散布するようにする。 | 24 | 10~29 |
| 2 | 9~10 | 工場内にて定盤の上に製造物を置き、製品の歪みを確認する作業を行っていた。気になる部分を見つけたため、定盤から少し離れて確認しようと後ずさりした時、後方にあった半製品（フレーム）に気付かず足を引っ掛けて転倒した。コンクリート製の床に尻もちをつき、大腿骨骨折に至った。 | 68 | 10~29 |
| 4 | 8~9 | 工場内の作業に於いて、150tプレス機の抜きの工程で下部に落ちるスクラップの入るプラスチックケース（縦61.5cm×横38.5cm×高さ20cm）を交換するため、引き出して自分のいた場所の後方へ置き、空のケースをセットして後ろへさがった時にそのケースがある事を忘れてつまずき、身体の左側を下にしてコンクリートの床へ転んでしまった。 | 45 | 10~29 |
| 7 | 18~19 | 加工完成品約25kgのダンボール箱をトラック荷台に積込作業中誤って足元の草で足を滑らせ、箱を抱えたまま後方へ転倒し、後部頸部をパレットの縁に強打負傷したものである。自宅で応急処置及び安静を保った。 | 69 | 1~9 |
| 7 | 9~10 | プレス工場において棚卸作業の最中、製品の入ったプラスチックコンテナを両手で持ち、後ろ向きに数歩下がったところ、プレス機に立て掛けてあった脚立に左足がぶつかり、バランスを崩してそのまま仰向けに倒れ、左手を甲の部分から床に打ちつけ負傷した。 | 64 | 30~49 |

| | | | | |
|----|-----------|--|----|---------------|
| 7 | 11～ 12 | 当社板金加工工場内において、製品の入ったプラスチックケース（幅30cm×奥行25cm×高さ11cm、重さ約1kg）を両手で持って移動していた。通路脇の棚の最下段にあるパレットが10cm程飛び出していたのに気付かず、躓いて転倒し、左膝をコンクリートの床面に打ちつけて負傷した。 | 63 | 10 ～ 29 |
| 9 | 10～ 11 | 工場内でプレス機械を操作中、右後ろの台の上にある材料を取り込むのに邪魔な鋼材を移動するため台の前で下にあったスクラップ材の上に乗って鋼材を持ち上げたところ、足が滑り転倒、下にあったスクラップ材に左腕肘下部が当たり裂傷を負い同時に中指・薬指の腱を切った。 | 35 | 10 ～ 29 |
| 10 | 10～ 11 | 本社工場内のプレス機械の裏にゴミが溜まっていたので、片付けようと思ったときに、敷き詰めてある鉄板が雨の為出入りしていて、その鉄板が濡れていたために滑って転び手を着いたとき、右手内側の骨を折ったもの。 | 52 | 10 ～ 29 |
| 10 | 9～ 10 | 自動倉庫内部品（ステンレス熱交換器、重量2kg）の搬出作業中、搬出口部内の木枠パレット架台部に足を掛け、手作業にて部品で荷下ろしていたところ、バランスを崩し自動倉庫搬出口付近床部固定してあるフォークリフト止め具の上に左足をのせてしまい左足を捻り損傷した。その後、熱交換器を持ったまま転倒したところ、その熱交換器と床との間で手を挟んでしまい、左手裂傷、骨折となった。 | 37 | 30 ～ 49 |
| 10 | 17～ 18 | 材料置場にてよろけて滑り木枠の鋭利な、でっぱり部分にあたって、皮膚がえぐれて切れてしまった。 | 70 | 10 ～ 29 |
| 11 | 17～ 18 | 本社の敷地内において帰宅の際、ロッカーから出たところに物が置いてあり、躓き転倒した。その時左腕を骨折してしまった。原因としては、暗くて足元が見えず、物があるのに気付けなかったことである。 | 47 | 30 ～ 49 |

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html